

漢文句法「二重否定」確認テスト（無不・不可不ほか） | 定期テスト対策 | 誰でも

古典塾 解答・解説

問1 答え：ざるはなし（～ざるハなし）。解説：「莫」は「～なし」、「不」は「～ず」。下から「飲食せ・ず・は・莫し」と返って読み、「飲食しないものはない」となる。

問2 答え：人飲食せざるは莫きなり。解説：「莫」＝「なし」、「不」＝「ず」。文末の「也」は「なり」と読む。

問3 答え：その親を愛さない者はいない（＝誰もが皆その親を愛している）。解説：「無有～者」で「～という者は存在しない」、その中身が「不愛其親（親を愛さない）」なので、二重否定で「皆親を愛する」という強い肯定になる。

問4 答え：ざるはなし（～ざるハなし）。解説：「無」も「莫」と同じく「～なし」と読む。「知らざるは無し」で「知らないものはない」の意。

問5 答え：イ。解説：「知らざるは無し」は「知らない者はいない」、すなわち「皆知っている」という強い肯定。アは否定のまま、ウは意味がずれる。

問6 答え：是れ行かんと欲せざるに非ざるなり。解説：「非不欲行」は「非（～にあらず）」＋「不（～ず）」＋「欲行（行かんと欲す）」。「行きたくないのではない」という二重否定。

問7 答え：ざるにあらず（～ざるニあらず）。解説：「非」は「～ニあらず」と読む打ち消し。「知らざるに非ず」で「知らないのではない＝ちゃんと知っている」の意。

問8 答え：私はそれ（このこと）を知らないのではない（＝ちゃんと知っている）。解説：「非不知之」は「知らざるに非ず」。打ち消しが重なり、控えめに「実は知っている」と肯定する言い方。

問9 答え：ざるべからず（～ざるベカラズ）。解説：「不可」は「～べからず（してはならない・できない）」。「慎まざるべからず」で「慎まないわけにはいかない＝慎まなければならない」となる。

問10 答え：慎まざるべからざるなり。解説：「不可不慎」を下から「慎ま・ず・べから・ず」と返読し、「也」を「なり」と添える。

問11 答え：ウ。解説：「読まざるべからず」は「読まないわけにはいかない＝読まなければならない」という義務・必要の意。アは禁止、イは不要の意味で誤り。

問12 答え：ざるをえず（～ざるヲえず）。解説：「不得」は「～（する）を得ず＝できない」。「戦はざるを得ず」で「戦わないではいけない＝戦わざるをえない」の意。

問13 答え：勢いとして戦わないわけにはいかない（＝どうしても戦わざるをえない）。解説：「不得不戦」は「戦はざるを得ず」。状況に迫られてそうせざるをえない、という意味。

問14 答え：あらざるはなし（～ニあらザルハなし）。解説：「無非」は「非（～ニあらず）」＋「無（～なし）」。「王の臣に非ざるは無し」で「王の臣でない者はいない」となる。

問15 答え：民で王の臣下でない者はいない（＝民は皆ことごとく王の臣下である）。解説：「無非～」は「～でないものはない」。打ち消しが重なり「すべて～だ」という強い肯定を表す。

問16 答え：其の徳を仰がざるは莫し。解説：「莫不仰」を「仰が・ず・は・莫し」と返って読む。二字熟語の「其徳」は一二点で「其の徳を」と返る。

問17 答え：多くの人々で嘆かない者はいない（＝誰もが皆嘆いた）。解説：「莫不歎」は「歎ぜざるは莫し」で全員が嘆く意。「也」は断定の「～のだ」。

問18 答え：天下にこれを恐れない者はいない（＝世の中の誰もがこれを恐れている）。解説：「無不畏之者」は「之を畏れざる者無し」。「無～者」で「～という者はいない」の形。

問19 答え：(例) 打ち消しの語が二つ重なると、「～しないものはない」となり、否定の否定で結局すべてのものを肯定することになるから。つまりマイナス×マイナスがプラスになるのと同じ働きである。

問20 答え：(例) 「～しないわけにはいかない（～できないことはない）」という形で、しないことを打ち消すため、結局「必ず～する／～しなければならない」という強い肯定・義務の意味になるから。

問21 答え：(1) 無不（莫不）…～しないものはない＝すべて～だ。(2) 非不…～しないのではない＝実は（ちゃんと）～する。(3) 不可不（不得不）…～しないわけにはいかない＝～しなければならない。(4) 無非…～でないものはない＝すべて～である。